

日本保険学会 平成22年度第3回理事会議事録

- 日時：平成22年9月24日（金） 16：00～17：15
- 場所：損保会館

初めに7月理事会の議事録の内容について、理事長より、確認依頼があった。

議題（4）に関し高尾理事より「議事録の内容に反対するものではなく、また、学会賞の創設に関し、すでに理事会決定があったとは承知しているが、学会として資産があまり潤沢でないことから、賞金まで出す必要はないのではないか。」との意見があった。

理事長より、ご意見を踏まえて評議員会、総会に臨みたい、と回答した。

議題（5）に関し吉澤理事より「会員と非会員との共同の学会報告を今後承認するかについては、次期理事会での継続検討案件となったが、複数の会員のみによる共同の学会報告や共同の保険学雑誌投稿は、現行規定上も何ら問題ないことを確認したい。」との質問があり、その旨、確認された。

1. 審議事項

（1）入退会者

出口理事長より 入会者14名、退会者6名の説明があり、異議なく了承された。なお、新入会員に対しては、すでに申込締め切りは過ぎているものの、大会の案内を送ることとした。

（2）学会創立70周年大会関係について

江澤平成22年大会委員長より 大会の準備状況につき、報告があった。

・24日時点での参加申込者は、261名であり、昨年度の実績（208名）を大幅に超える見込み。一部、用意している教室のキャパシティを超える申し込みがある報告があるので、教室の再手配を行う。

・滋賀大学 久保先生より 中国の報告者については、通訳料を大学で負担するので、学会として、懇親会に無料招待いただけないか（対象者は、合計3名）との申し入れがあった。審議の結果、承認することとした。なお、初日夜開催の懇親会の席上、中国の先生につき、簡単な紹介をすることもあわせて承認された。

（3）国際交流委員会関連

福田国際交流委員会委員長より 来年東京で開催予定のAsia - Pacific Risk and Insurance Association(APRIA) 2011大会についての学会としての対応につき、これまで、当学会のAPRIAへの対応は必ずしも明確でなかったが、今回は、学会として機関決定を行い、APRIAに理事（Board of Governor）（長崎大学 大倉准教授）を送り込

むことができた。当学会として、APRIAの理事ポストの確保もあり、わが国で開かれる大会につき、応分の協力は必要と考える、として以下の通り提案があった。

学会として、来年度大会に50万円を寄付する。費用については、学会の学術交流積立金の一部取崩しにより対応する。

学会員に大会のスポンサー探しにつき、協力を求める。具体的には来月の評議員会の席で、福田委員長から呼びかけを行う。

学会員が、APRIAの準備状況をよく理解できるように、学会ホームページで定期的にAPRIAニュースを発行する。

次いで討議に移った。

まず、学会の大会での主催校への補助金が60万円であることから、それに近い金額をAPRIAに支出する学会としての意義についての質問があった。これに対し、福田委員長より、APRIAは、特に若手学者の国際学会への登竜門として意義は大きく、ぜひ当学会として支援していきたいとの説明があった。また、理事長より、もともとAPRIAやAIDAなどの海外学会への報告者派遣に際して、理事会としては相応の派遣費用を負担している。来年度は、APRIAが東京開催のため、派遣費用がほとんどかからないことを考えれば、50万円は妥当な支援額ではないか、との意見表明があった。

議論の結果、 については、承認。 については、寄付金の使途をAPRIAから後日報告させること、を条件に50万円の寄付を承認することとした。

なお、学会として寄付をするのであるから、APRIA東京大会に参加する学会員に対して、参加費の割引を求めたらどうか、との意見があり、福田委員長が、APRIA組織委員会と交渉することとなった。

(4) 平成22年度評議員会、総会 (10月23日)

事務局から当日の議題につき 提案があり、以下の1点を修正して原案どおり承認された。

* 評議員会においては、新役員の公表は行わないので、「議題 役員および評議員の改選」の項目を削除する。

(5) 学術レポジトリに対する対応

事務局より 現在3つの大学から、学術レポジトリに各大学の教員が執筆した保険学雑誌所載論文につき、掲載を認めてもらいたい、との依頼が来ている。これまで保険学雑誌の電子ジャーナル化についての結論が出ていなかったことから 回答を保留していたが、前回の理事会で雑誌発行後2年経過した論文の電子ジャーナル化につき承認されたので、本件どう対処すべきか、との問題提起があった。

審議の結果、学術レポジトリについても、学会の扱いと同様に、雑誌発行後2年経過した論文の電子ジャーナル化を認めることが承認され、事務局から当該大学にその旨、回答することとなった。

2．報告事項

(1) 委員会等報告

保険学雑誌編集委員会

吉澤理事より 保険学雑誌の投稿状況ならびに、610号の発行予定につき、報告があった。これに関連してAPRIAでの報告がこれまで保険学雑誌に掲載された例がないようだが、との質問があった。吉澤理事より 理事会から派遣されて国際学会で正式に報告を行った場合は保険学雑誌への投稿は認められているので、該当するケースについては積極的に投稿を呼びかけたい、との回答があった。

ホームページ委員会

小林委員長より 7月の理事会決定を受けて、「保険学雑誌」の電子ジャーナル化についての準備を進めていること、また最初の電子ジャーナル化案件として、保険学雑誌601号、602号を10月の大会までにホームページにアップする予定であるとの報告があった。

関東部会、関西部会、九州支部

石山部会長、羽原部会長より 9月部会の実施状況ならびに実施予定の報告があった。また、事務局より7月31日に九州支部例会が実施されたとの報告があった。

3．その他

今年度は理事20名のうち、9名が退任するが、退任理事にとっては本理事会が最後の出席となることから、理事長より 退任理事に対してこれまでの学会への貢献に対して感謝の表明があった。

また、退任理事からの挨拶があった。

以 上